南無去来現在一切三寶咊歌先霊往生佛國

右以證本書寫之且遂挍合畢

元祿十三龍集庚辰仲秋下浣　直同

右柿本講式以百花庵宗固蔵本及一本挍合了

柿本像縁起勧進状

沙門慶範敬白

殊ニ十方檀那乃御助成をもて大和国添上郡
治道乃柿下寺人丸の墓を修造しならびに
かの木像を造りあらため縁文せんとあるに勧進の状
それ柿本の人丸ハ歌林の目しるしなりけるかし文武
天皇の御宇に君臣合体乃徳を行ひくせ給ふよし人
延喜御書ニ頼紀貫之ニ古今假名の序にあきらかにあらハせ
るはりハ秋の夕龍田川ながるゝもみぢをハ御門乃御目に
錦と見たまひ吉野山乃桜をハ人丸か心に雲とおもへん

見ゆる所やしきこのむや風雅頌の三ツの道有
して宗因喩続始りしより生を殺すも事しの志
萬葉集に入らまくるおその教訓まして紀信に応
三ヶ条の古き記録にすくめ河まて礼ゆり入唐の事に
拾遺集有見て由り河わとふや承りの役のまつ紀
墨を絵まる主婦家なん事は石見由と以へ季いつも山光
岩ね有をりる我身哉かなしめ里君うて何まよく人
丸乃墓所柿本の明神といへるは播磨乃由何し
のうしふありとこのやむま哉むらくて朗らかり不翁の
くもせし金玉乃記を見て末乃世まで流さうへんとあ

むかしこのむを好みあはせるにやさまて〱毋清輔朝
臣の詠河季家寂蓮法師ゟおの里さのよろふ乃事
まくありきろへし　柿やまと乃くまとろまみちの杜
ふ人丸の堂に何あれそまゐとの旧跡とうたの画記
いうんと以てまうてあしふての詞有なしの頌ふ
むかしは〱やらむむかしを探らむいかくの時の定る
まゝあて〱すて妹ヶ待らむとゝめ季をし故ハに何う
おそれよすらなくは何ふこの百首乃跡を継さむ
や人丸なん哉る中に修理大夫顕季は信養せんと
年蔵家敦光て　僕の詞につくへし　よ生世尋まる

わくのまゝ今ハ堂ところ乃堂よかの影あり星霜
のちなりて本堂破壊をなし雨露かゝりおゝくまて
本像乃縁えふ明なりすあまねく申て十方の檀那を
勧て諸人の助縁をもて尊像を致さんことをおもひ
一紙の堂を修しとせず半銭ま借ありきより
寄せす徹塵かさなりて山となりいくものをつも
まさに海となる名哉おもしまの乃よいとこの
むね本八月のまゝに経縁を諸法徒法乃あまねく
らんとも影ふゝのも尊乃おかさまいたのれ他
ハ日本乃沙羅尼ありといもゝしよりえを

いまは清く入ありおまつりて和光同塵乃神明も
世乃をき擁護のす入重玄門乃薩埵もそのたまけ我
のあつし給へりもし諸人の奉加によりて修造功なら
はなか乃家の名とおのれ娘れる孩二世を心にした
まる縁を事をへくかさのまことれをし里乃みち
もむらしかん西影ふそちうくへんといふ事なら
里勧を乃おのむち此大概かくのおとし

文明八年卯月日

右大和国添上郡治道山梅本禅寺勧慶花自筆本写之

修理
昭和28年12月
内閣文庫

日本政府圖書

羣書類從卷第二百八十三

国立公文書館
National Archives of Japan